

マンスリーレポート

8月の県内経済は、厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きが広がっている。

1. 平成24年8月の県内経済

項目	コメント	景況判断	
		変化方向	水準
県内経済の景況	県内経済は、生産活動が鈍い動きながらも、公共投資や消費動向を中心に持ち直しの動きが広がっている。	⇒	
消費動向	大型小売店販売額は、飲食料品と衣料品を中心に前年を上回り、11ヵ月連続で前年比で増加した。また、新車登録台数も、11ヵ月連続で前年を上回った。	⇒	
公共投資	公共工事前払保証取扱は、件数、請負金額、保証金額とも13ヵ月連続で前年を上回った。	⇒	
設備投資	民間・非居住用建築着工は、棟数は4ヵ月連続、工事費予定額と床面積は3ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。	↗	
住宅投資	新設住宅着工戸数は、持家が8ヵ月ぶり、貸家が5ヵ月ぶり、分譲が2ヵ月ぶりでそれぞれ前年を下回ったことから、合計では6ヵ月連続で前年を下回った。	⇒	
生産活動	鉱工業生産指数は、2ヵ月連続で前年を下回り、3ヵ月連続で前月を下回った。	↘	
雇用動向	有効求人倍率は、季節調整値が前月比、原数値が前年比でそれぞれ上昇した。一方、雇用保険受給者実人員は震災による影響で急増した前年同月を下回った。	⇒	

注：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（↗：改善、⇒：不変、↘：悪化）、「水準」は現在における景況の水準をそれぞれ示す。「変化方向」は当月と前月における3ヵ月加重移動平均の前年同期比の比較、「水準」は当月の3ヵ月加重移動平均値と過去5年間の平均値の比較により、それぞれ判断している。但し、「変化方向」が改善または悪化の場合でも、「水準」が変わらない場合もある。
尚、公共投資および設備投資は6ヵ月加重移動平均値による判断、民間・非居住用建築着工および鉱工業生産指数は7月データ。

〈天気図（水準）の意味〉

晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨

← 良
悪 →

2. 県内経済動向の概要

(1) 前年同月比

(単位：%)

	項 目	前 年 同 月 比					
		24年3月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	34.4	22.0	11.5	5.4	2.3	6.6
	乗用車新車登録台数	189.4	89.6	97.0	65.4	66.5	38.6
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	304.9	122.9	295.3	226.9	180.2	194.3
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	▲ 0.9	▲ 71.0	55.8	110.1	148.2	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	21.3	124.5	81.7	100.4	41.7	▲ 23.2
生産活動	鉱工業生産指数（総合） ^{注1}	49.9	34.9	15.5	▲ 1.0	▲ 1.9	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） ^{注1}	0.35	0.36	0.38	0.38	0.38	0.40
	雇用保険受給者実人員	▲ 5.2	▲ 52.4	▲ 60.9	▲ 65.4	▲ 62.4	▲ 60.5

注1 原指数

(2) 前月比

(単位：%)

	項 目	前 月 比					
		24年3月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	10.1	0.2	1.1	▲ 3.6	6.0	1.1
	乗用車新車登録台数	61.2	▲ 48.6	6.3	22.4	5.7	▲ 28.3
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	159.4	▲ 48.0	23.3	35.6	15.0	36.9
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	17.1	▲ 26.1	20.1	45.5	▲ 6.0	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	26.0	41.1	▲ 9.0	15.9	▲ 11.9	▲ 9.6
生産活動	鉱工業生産指数（総合） ^{注2}	▲ 0.8	1.8	▲ 4.3	▲ 2.6	▲ 3.8	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） ^{注2}	0.05	0.10	0.05	0.04	0.02	0.01
	雇用保険受給者実人員	▲ 11.7	▲ 7.6	8.1	▲ 4.0	0.7	▲ 0.5

注2 季節調整値

3. 県内経済動向

消費動向

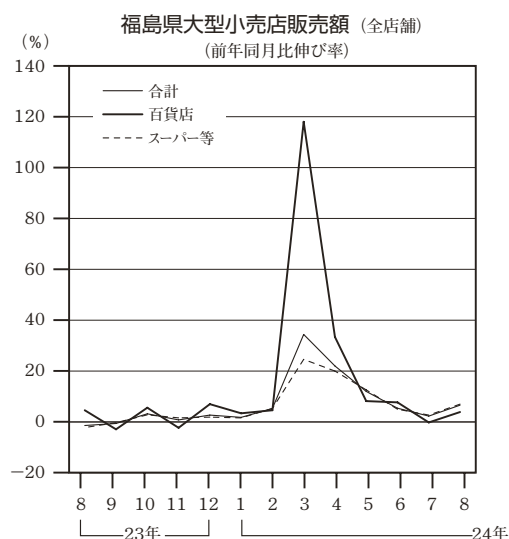
大型小売店 8月の県内大型小売店の販売額（全店舗ベース）は、飲食料品と衣料品を中心に前年を上回ったことなどから、合計で201億79百万円（前年同月比+6.6%）と11ヵ月連続で前年を上回った。また、既存店ベースでも、前年同月比+3.7%と前年を上回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でもともに存在した事業所の数値。）

業態別にみると、百貨店は、飲食料品と衣料品が前年を上回ったことなどから、全店舗ベースの合計では23億36百万円（前年同月比+3.9%）と2ヵ月ぶりに前年比で増加した。また、既存店ベースでも前年同月比+3.9%となった。

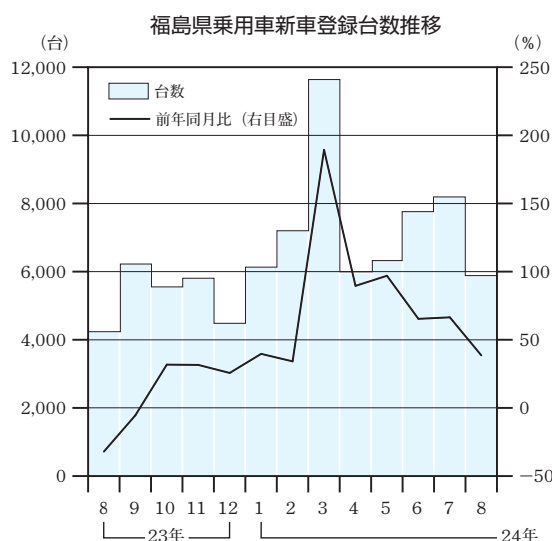
スーパーも、飲食料品と衣料品が前年を上回ったことなどから、全店舗ベースの合計では178億43百万円（同+7.0%）と11ヵ月連続で前年を上回った。また、既存店ベースでは、前年同月比+3.7%となった。

乗用車販売 8月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で5,915台（前年同月比+38.6%）となり、11ヵ月連続で前年を上回った。車種別でみると、普通車は1,838台（同+36.8%）、小型車は1,964台（同+25.4%）、軽乗用車は2,113台（同+55.5%）とそれぞれ11ヵ月連続で前年を上回った。

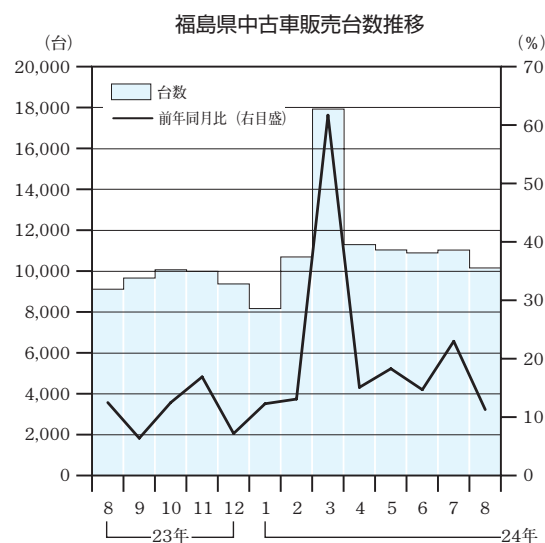
8月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で10,479台（前年同月比+14.3%）と17ヵ月連続で前年を上回った。車種別にみると普通車は3,198台（同+18.9%）と16ヵ月連続、小型車は3,615台（同+6.0%）、軽乗用車は3,393台（同+10.7%）と17ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。



（資料：経済産業省）



（資料：㈱日本自動車販売協会連合会福島県支部）



（注）軽自動車は名義変更台数含む
資料：㈱日本自動車販売協会連合会 福島支部
㈱全国軽自動車販売協会連合会

消費者物価指数 8月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成22年=100）でみると、99.6と前月比で+0.3%、前年同月比で△0.1%となった。

費目別にみると、「教養娯楽」の94.5（前月比+1.8%）など5費目が前月比で上昇したが、「被服及び履物」96.7（同△3.1%）と「家具・家事用品」95.3（同△1.9%）の2費目が前月比で下降した。

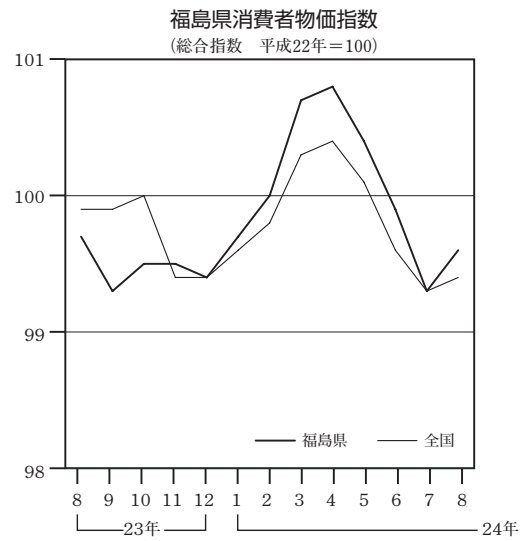
家電量販店 8月の家電量販店の売上高は、エアコンや冷蔵庫などが前年を上回ったものの、テレビやパソコンなどが前年を下回ったことなどから、合計では前年並みにとどまった。

ホームセンター 8月のホームセンターの売上高は、医薬品や飲食料品などの日用品を中心に前年を上回り、合計でも前年比で増加した。

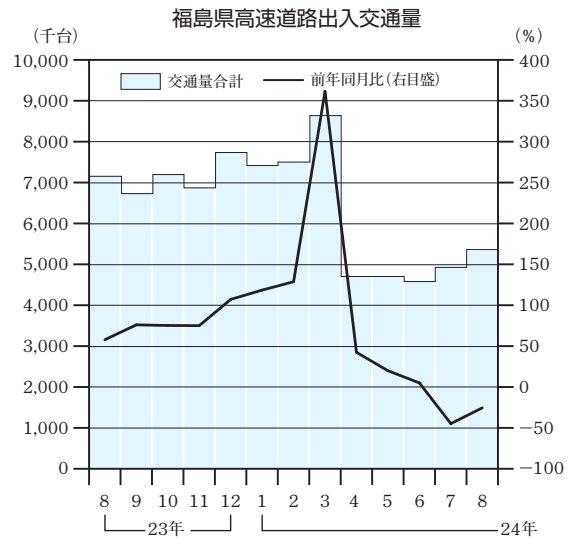
旅行 8月の旅行取扱額実績は、海外旅行が振るわない中、行政主催の団体旅行が好評だったことから、国内旅行が震災前の平成22年の水準を上回ったため、合計でも平成22年実績を上回った。

高速道路 8月の県内自動車道出入台数は、合計で5,375,873台（前年同月比△25.4%）と2ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,894,487台（同△30.6%）と3ヵ月連続で前年を下回った。一方、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は491,776台（同△19.5%）、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は777,404台（同△30.3%）、常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は1,212,206台（同△7.1%）となり、それぞれ2ヵ月連続で前年を下回った。

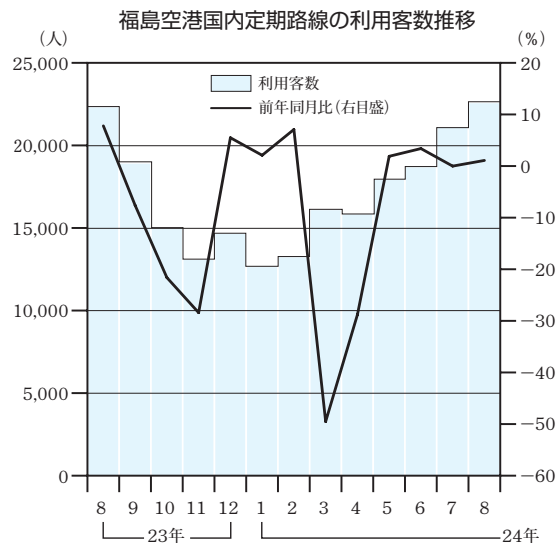
福島空港 8月の福島空港国内定期路線の利用状況は、22,672人（前年同月比+1.1%）と前年を上回った。路線別にみると、札幌便は11,930人（同+2.2%）、大阪便は10,742人（同△0.07%）となった。



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)



(資料：福島県商工労働部空港交流課)

一方、国際定期路線については、ソウル便ならびに上海便とも、全便運休により、利用実績はなかった。

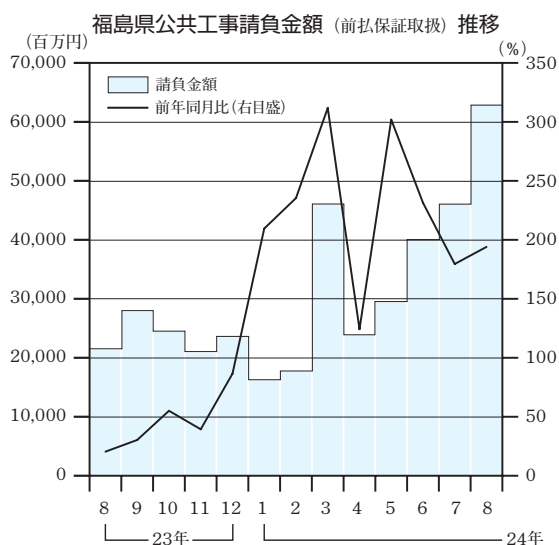
—— 投資動向 ——

公共工事 8月の公共工事前払保証取扱は、件数が731件（前年同月比+1.1%）と13ヵ月連続で前年を上回った。また、請負金額は630億63百万円（同+194.3%）、保証金額は293億94百万円（同+185.4%）となり、それぞれ13ヵ月連続で前年を上回った。8月の主な発注者別請負金額をみると、国が261億37百万円（同+827.2%）、県が101億93百万円（同+25.3%）、市町村が240億25百万円（同+138.7%）となった。

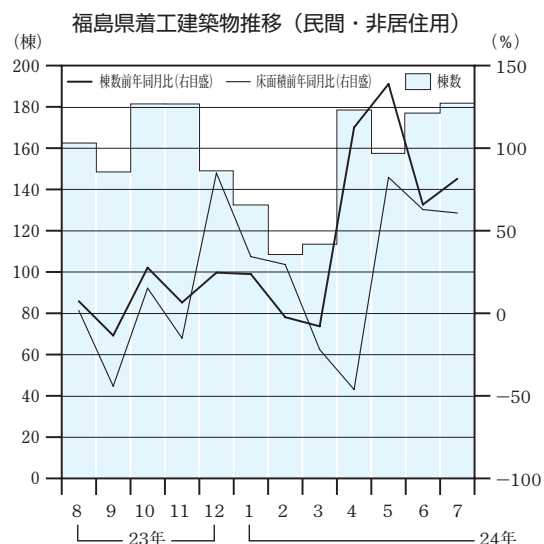
設備投資 7月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が182棟（前年同月比+82.0%）と4ヵ月連続で前年を上回った。また、床面積は72,109㎡（同+61.3%）、工事費予定額は100億46百万円（同+148.2%）となった。

7月の建築物確認件数（計画変更を除く）は953件（同+3.5%）と8ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）は187件（同+4.5%）と10ヵ月連続で前年を上回った。4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）は766件（同+3.2%）と7ヵ月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定合格件数」は31件となり、前月比で5件増加した。

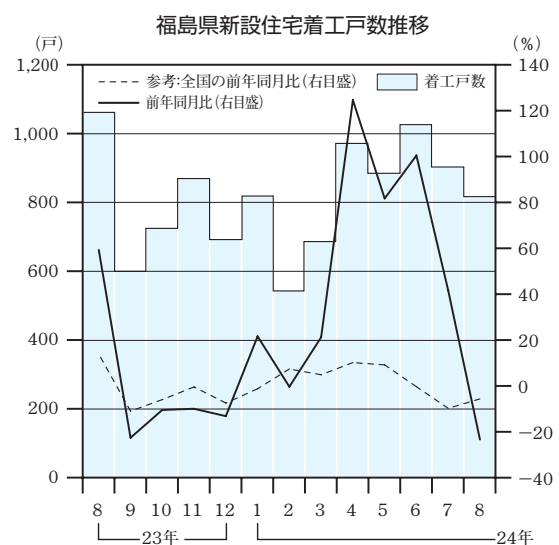
建築物着工の先行指標である7月の建築物申請件数は、1,019件（同+13.2%）と8ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物は201件（同+16.9%）と6ヵ月連続で前年を上回った。4号建物は818件（同+12.4%）と8ヵ月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は30件となり、前月と変わらない



（資料：東日本建設業保証㈱）



（資料：国土交通省）



（資料：国土交通省）

かった。

住宅建設 8月の県内新設住宅着工戸数は、817戸（前年同月比△23.2%）と6ヵ月ぶりで前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は550戸（同△8.8%）と8ヵ月ぶり、「貸家」は232戸（同△37.5%）と5ヵ月ぶり、「分譲」は34戸（同△58.5%）と2ヵ月ぶりでそれぞれ前年を下回った。

—— 生産活動 ——

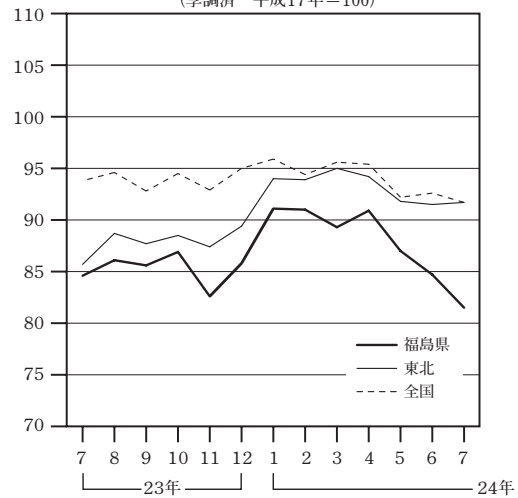
鉱工業生産指数 7月の鉱工業生産指数は、81.5（季節調整値）で前月比△3.8%と3ヵ月連続で前月を下回り、原指数は87.9で前年同月比△1.9%と2ヵ月連続で前年を下回った。業種別の季節調整値をみると、「プラスチック製品工業」（前月比+8.8%）など7業種で上昇し、「木材・木製品工業」（同△12.2%）など13業種で下降した。

※福島県では、調査対象企業のうち、震災の影響により調査できない約3%の企業の生産額は0として処理している。

化学 8月の食品包装フィルム用合成樹脂の生産は、国内向けが横ばいで推移したものの、中国の需要が落ちてきていることから、総体では前年を下回る水準となった。一方、高性能樹脂は、エレクトロニクス向けの受注量の減少をエコカー向けの堅調な受注で補い、フル生産を続けている。また、酸化チタンおよびバリウム化合物は、塗料向けの需要が減少していることなどから、計画を下回る生産水準となった。

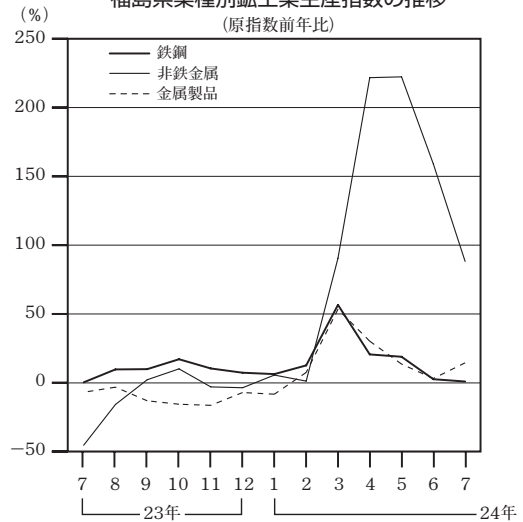
鉄鋼・金属 8月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材がエコカー補助金の駆け込み需要などから、前年を上回ったが、半導体向け電子材は、円高と低調な欧米経済の影響、新興国の製品との競合などから、依然として前年水準を下回った。建機用鋳造品は、中国以外のアジア諸国やオーストラ

福島県鉱工業生産指数（全国、東北との比較）
（季調済 平成17年=100）



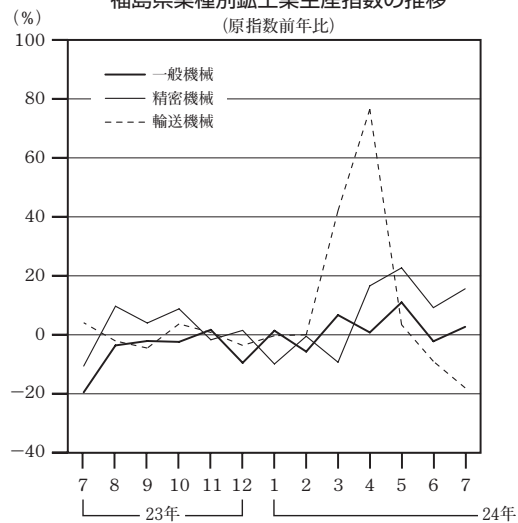
（資料：福島県企画調整部統計調査課）

福島県業種別鉱工業生産指数の推移
（原指数前年比）



（資料：福島県企画調整部統計調査課）

福島県業種別鉱工業生産指数の推移
（原指数前年比）



（資料：福島県企画調整部統計調査課）

リア、アメリカの受注が堅調だったものの、中国の受注が減少したことから、合計では前年を20%ほど下回る生産となった。一方、陸船用バルブは、円高などにより、海外の受注量が減少しているため、前年を20%程度下回る生産となった。

輸送用機械 8月の鋳造品は、トラック向けではインドネシアやタイなどからの受注が高水準だったため、合計でも前年並みの生産水準を確保した。また、カーナビおよびカーオーディオも、円高や低調な欧米経済の影響を受けているものの、前年並みの生産水準となった。一方、オイルシールは、エコカー補助金打ち切り前の駆け込み需要もあり、高い生産水準を保っている。

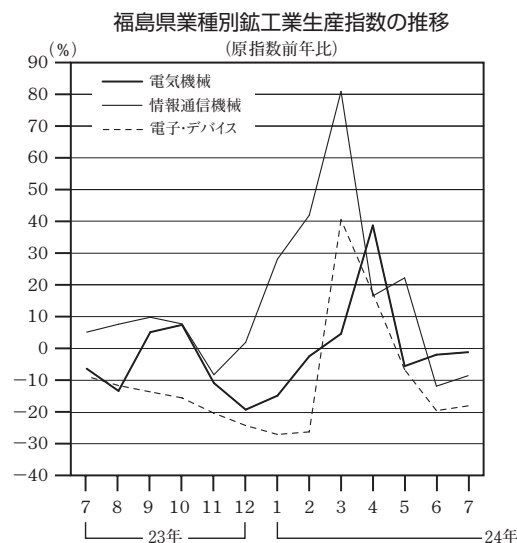
電気機械 8月の自動車向けモーターは、前年をやや上回る生産となったが、配電盤の生産は、昨年が火力発電向け特需などで増加したことから、反動減がみられた。

情報通信機械 8月のマイクロ波通信機器などの無線通信機器は、インドなどの海外需要が減少したことなどから、前年を2割以上下回る生産となった。

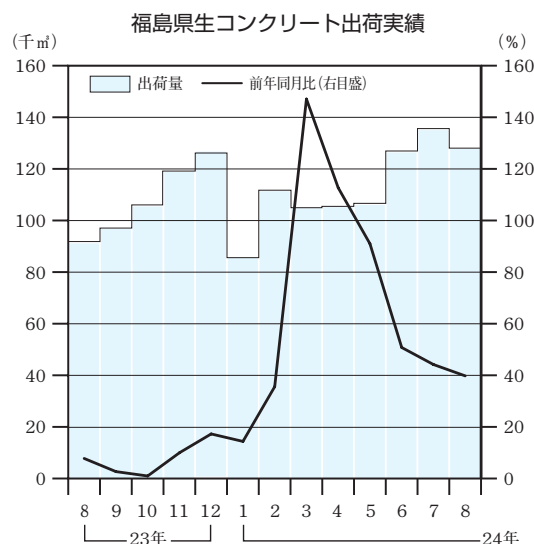
電子部品・デバイス 8月のLSI（大規模集積回路）の生産は、車載品およびAV・ゲーム機・家電、産業機器向けが低調な半導体需要や円高の影響からいずれも前年を下回った。

精密機械 8月の医療用内視鏡は、国内向け製品の受注量が横ばいで推移し、欧米向け高付加価値新製品の受注が伸び悩んでいることから、合計では前年比で10%以上の減産となった。一方、デジタル一眼レフカメラ用レンズは、震災の影響をあまり受けずに高かった昨年8月とほぼ同水準の生産となった。

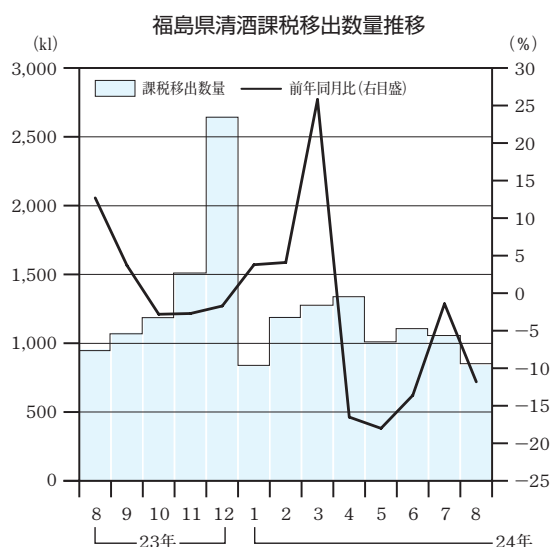
紙・紙加工品 8月のノーカーボン紙および感熱紙、インクジェット紙とも、生産水準は上昇基調で推移しているが、輸入品との競合や昨年8月の操業度が高かったことから、前年比では10%以上



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)



(資料：福島県酒造組合)

減少している。一方、ダンボールは前年並みの生産となった。

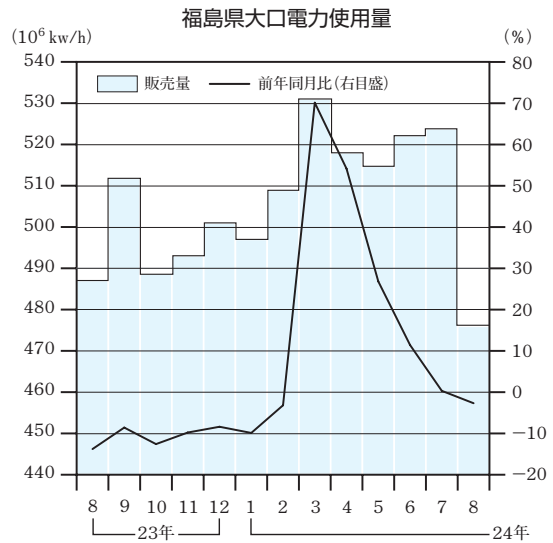
窯業・土石 8月の生コンクリート出荷量は、全体で128,461m³（前年同月比+39.8%）と13ヵ月連続で前年を上回った。民需・官公需別にみると、民需は、相双地区が火力発電所保安対策工事、会津地区が福祉施設増築により前年を上回ったものの、残りの4地区が前年を下回ったため、合計では前年比で△7.0%となった。一方、官公需は、いわき地区の岸壁・湾岸道路復旧工事や会津地区の道路・橋梁工事、相双地区の海岸保全施設整備工事など、県中を除いた5地区が前年を上回り、合計では同+104.5%となった。

清酒 8月の清酒移出数量は、855kl（前年同月比△11.8%）と5ヵ月連続で前年を下回った。酒類別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が397kl（同△8.4%）、一般酒（特定名称酒以外の酒）が459kl（同△14.5%）と5ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。

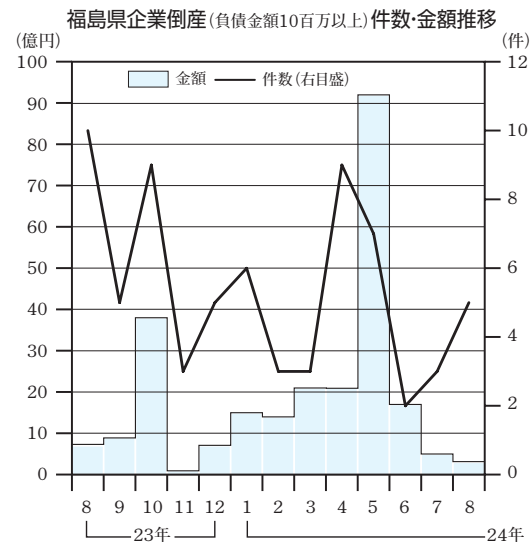
化合繊維物 8月の化合繊維物は、ナイロンが円高と欧米経済の低迷などにより、海外からの受注量が大きく減少しており、ポリエステルに生産をシフトしているものの、総体では前年を大きく下回る生産高となった。

ニット 8月のニットは、カシミアなどの単価の高い秋冬物の受注量が増えたため、前年を2割程度上回る生産水準となった。

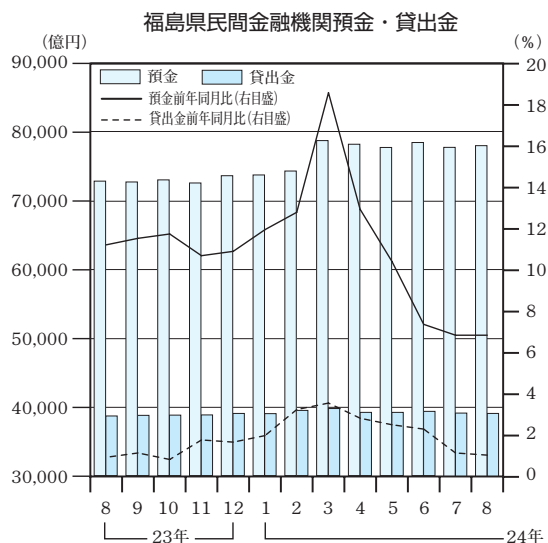
大口電力 8月の大口電力販売量は、476百万kw/h（前年同月比△2.3%）と6ヵ月ぶりで前年を下回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で109百万kw/h（前年同月比△7.6%）、「電気機械」で87百万kw/h（同△5.0%）、「輸送用機械」で52百万kw/h（同△1.6%）、「化学」で37百万kw/h（同△18.8%）、「一般機械」で26百万kw/h（同+0.4%）、「紙・パルプ」で15百万kw/h（同+12.7%）となっている。



(資料：東北電力福島支店)



(資料：帝国データバンク福島支店)



(資料：日本銀行福島支店)

—— 企 業 倒 産 ——

企業倒産 8月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が5件（前年同月比△50.0%）、負債総額が3億31百万円（同△53.6%）と件数が4ヵ月連続、負債総額が3ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。また、業種別でみると、サービス業が4件、小売業が1件となった。

—— 金 融 動 向 ——

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の8月末の預金残高は、7兆8,185億円（前年同月比+7.3%）と67ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆9,182億円（同+1.3%）と16ヵ月連続で前年を上回った。

保証協会 8月の保証承諾は、件数が600件（前年同月比△69.5%）、保証金額が58億3百万円（同△81.0%）となった。また、8月末日現在の保証債務残高は、件数50,038件（同+6.6%）、金額4,937億82百万円（同+8.9%）となった。一方、8月中の代位弁済は、件数が20件（同△60.0%）、金額が3億43百万円（同+9.2%）となった。

—— 雇 用 動 向 ——

雇用動向 8月の新規求職申込件数（原数値）は8,565（前年同月比△20.5%）と5ヵ月連続で減少となり、新規求人数（原数値）は14,854人（前年同月比+16.2%）と震災復旧関連により17ヵ月連続で前年を上回った。

8月の新規求人倍率は、季節調整値が1.53倍（前月比△0.01ポイント）、原数値が1.73倍（前年同月比+0.54ポイント）となった。また、8月の有効求人倍率は、季節調整値が1.04倍（前月比

+0.01ポイント）、原数値が1.05倍（前年同月比+0.40ポイント）となり、原数値は29ヵ月連続で上昇した。

一方、8月の雇用保険受給者実人員は8,931人と引き続き高水準ながらも、震災により急増した昨年8月と比較すると△60.5%となった。

